

クラブフォーラム「職業奉仕月間に因んで」

有田ロータリークラブ

開催日 2002, 10, 31 (木)

テーマ 『私の職業奉仕観』

発表者 総田 隆信 君、嶋田 崇 君、嶋津 克史 君、上野山 捷身 君 (約3分/人)
(フロアからの発言又は討論)

まとめ 成川 守彦 君

総田君：

生業は様々なれど職業は様々である。職業とは、生計を立てる為の仕事である。奉仕とは、商人がお客さんの為に、特に安価に売るのではなく、献身的に国家、社会、世界の為に尽くすことである。

私の職業分類は林業です。林業は山に植林をして、それを伐り出して、収入を得る仕事です。

この間80年～100年の間には、職業本来の行為をしながら、生計を立てていくのですが、その間に予測もしていない面で、社会に貢献しているのです。

木材生産においては、空気を清浄にし、水を蓄え供給し、山で作られた微生物や、腐葉土が谷を下り、川に流れて、海に出るまでの間に、魚を育てています。

これは、間接的に職業奉仕であります。これは、収入には入りませんので、正に国家に、社会に献身的に尽くしているところです。

次に、職業を通じて経験した事や情報やソフトウェア等を、地域社会での生活に、或いは同業者の集いに趣味や同好会の運営に生かす事も、職業奉仕と考えられると思います。

そのためには、RCの四つのテストを行動規範として、職業の倫理観の高揚に努め、品位を高める活動を推進して、それを職業の現場や同業者の組合活動等に持ち帰って、同業者の皆さんに大いにPRする事が、RCの職業奉仕の原点であり、RC本来の原点、出発点であり、これが他の奉仕団体に無い最も大切な特色であります。

嶋田君：

色々な書物を読んでみて、ロータリーの職業奉仕とは、一言で言うならば「各人各々が自分の仕事を一生懸命頑張り、地域社会に貢献して行く事」であると思います。さしあたり私の場合は歯科医ですので、自分の技術を磨いて患者さんを治療し、地域医療の発展に寄与する事が私の職業奉仕だと思えます。

今、私が申し上げた事は、数学や理科で言う職業奉仕の定理や公式の様なものです。ロータリーは米国で生まれ育った組織で、先程から申し上げている職業奉仕の理念は、米国版と考えています。それならば、日本版はというと...。日本は米国に比べ狭い国土に沢山の人が住む単一民族国家です。このような日本で生活していく上で大事な事は、人間関係が一番大事かなと思います。よく職業奉仕を語る上で引き合いに出されるのが、日本では商売をする時、ロータリアンがお客さんで来た時に、色々便宜を図ってあげる行為(代金を少し安くするとか)があります。便宜を図るといふ行為が職業奉仕かという問題はありますが、米国版は、いつも通りの利益の追求をしたら良いのであって、ロータリアンが客だからと言って便宜を図るのは職業

奉仕の理念にそぐわないと言います。しかし、日本では人間関係を特に重視するので、知り合いなら便宜を図るという行為は、多くの人がやっている行為であって、お互いの人間関係を更に深める一助になるわけです。このように日本においては、人間関係を重視した独特の職業奉仕もあって良いのではないかと思います。これを日本版職業奉仕と考えています。世界各国には色々なお国事情があって、それぞれの国にあった個性的な職業奉仕があっても良いのではないかと思います。勿論、米国版が基本理念である事は言うまでもありません。

以上が私の考える職業奉仕ですが、後程成川先生からご指導を賜りたいと思います。有難うございました。

上野山(捷)君：「私の職業奉仕観」

職業分類は郵便事業

郵便事業の内では、特定郵便局長

国家公務員，定年65才

自営局舎

無転勤

選考任用制

地域社会に奉仕

特定郵便局長の心得

特定郵便局長は、誇りと使命感を持って地域社会に奉仕する

公平、公正かつ親切に職務を遂行する

規律を厳正に保持し、相互の連帯を強める

人格を磨き、能力を高め、自己の充実に努める

清廉ににして、堅実な生活態度を保持する

防犯3つの誓い

1. 私は、自分を愛します。
2. 私は、仕事を愛します。
3. 私は、お客様を愛します。

ロータリーの四つのテストと比較し、採点しましても満点に近いのではないかと勝手に思っています。

この様に、私の仕事自体が職業奉仕に直結しているようです。

34年間は、特定局長として、仕事一筋に取り組み勤めてきまして、当然職業柄、上記の考えが身に染みこんでいます。

他に、30年近い間、質は悪かったかと思いますが、青少年健全育成ということで、少林寺拳法(前半8年間は空手道)に関わってきました。

又、ロータリー加入は8年になります。

以上通してわかったことは、同じ条件で同じ仕事をして、その人、その人の人柄(中身)が違うことによって、奉仕の内容も質も違うことと、自ら実践することが第一であるということです。

今後私も、先ず体と心の健康第一に経済的、時間的に許せる範囲で、余り無理せず、自分が出来る小さい奉仕を長く続けていきたいと思います。

嶋津君：

職業奉仕を一言で言うなら、9/26に会長が「会長の時間」で話された、「事業により得た利益を事業に関係する人達と分かち合う」という事だと思いますが、その見方でいきますと、

私共は失格者になります。利益を十分に上げるどころか赤字の経営だからです。

とはいえ、何のために私はこの職業にしがみつき、事業を継続しているのか。

この観点から職業奉仕を考えました。

1. 今の不況の中でのみいえることかも知れませんが、社員の雇用は大いに社会に寄与していると思われまます。パートを含めて80名の社員を雇用しています。実際、この部分が経営上一番苦しい所なのです。

2. 人々に癒しの場所を提供している。元来私の業界は「ホスピタリティ」を理念に掲げて運営されるものです。人の心に癒しを与える職業です。

3. 私共では文化の発信基地となるべく、平成9年より文化・芸術の展示に、コンサート、ダンス、味のイベント等を行ってきました。これは、確実に地域社会への職業奉仕だと思えます。見た環境と資源の問題にまで配慮しなければならない情勢であります。

<フォーラムのまとめ>

[総田隆信君の発言に関して]

ご自分の職業に関して、環境問題について言われましたが、先程、上野山君の発言の際申しましたが、世界的視野で見た環境と資源の問題にまで配慮しなければならないのが、現在の職業奉仕であります。

[嶋田崇君の発言に関して]

日本版職業奉仕論を述べられましたが、ロータリーにおける職業奉仕は、「ロータリー精神」をもってやる、「奉仕の精神」でやるということです。しかし、解かっているようで、漠然として解からないと言われる方には、別の言葉で言えば、“The Four-Way Test”の精神を汲み入れて、企業の道徳的規準を高め、その職業を通じて社会今は、「香り」をテーマに地域に発信しております。お客様の道徳心との戦いがあります。サービス業の宿命でしょうが、色々な情報を逆にこのクラブの場所へ提供したいと思えます。

私個人としましては、職業においては、道徳的な水準を守り、品位を保ち、関係する人々に対して公正にやってきたと思えます。一部欠落することもあるでしょうか。これからも研鑽を重ねたいと思えます。

フロアからの発言 上野山(英)君：

私の場合の職業である農業を例に挙げると、高度成長期は、その生産物が「美しく、大きくバラツキが無い」事が時代の要求であり、消費者ニーズで、その為には、毒性のある農薬やホルモン剤の使用で需要に応えてきた背景がありました。

しかし、今の時代は「味の良さ」と共に、「食の安全」が最優先され、美しさや大きさやバラツキが余り求められなくなってきました。

このように、時代と消費者ニーズが職業の倫理基準を変えてゆくという事も、今後生じる事を念頭に対応してゆく必要があると思えます。

成川PDG(コーディネイター)：

<上野山英樹君の発言に関して>

仰るように、顧客の要望に応じて、職業奉仕は変わってきます。

かつてのロータリーは職業奉仕の主要課題として、取引関係、同業関係、下請け関係、企業内管理関係の四つを採り上げればすんだのであります。

しかし、最近では、それのみに留まらず、世界的視野でに貢献する。更にこの信条を同業の

或は友人達にも広めることであります。

職業奉仕の基本は、「四つのテスト」であるといわれます。この「四つのテスト」を十分ご理解していただき、活用していただきたいです。

尚、ハーバート・テラーが1932年に作成した「四つのテスト」は、その内心を行動に移す場合のアプローチとして、誠に簡単且つ効果的であります。

発案者テラーは次のように言っております。

「このテストは行動への尺度であって、掟ではない」

(“ The Test is a measuring stick for conduct, not a code ”)

[上野山捷身君の発言に関して]

「小さい奉仕を長く続けていきたい」を言われましたが、ロータリーの奉仕の原点はその通りです。

ロータリーでは、仮に事業の規模が小さくても、「蒼天一炷香」という様な市井の善人を理想としています。そういう人が数多く集まることによってこそ明るい幸せな社会が出来るのです。

* (注) ^{そうてんいっしゅこう} 蒼天一炷香 (佐藤千寿PDGの説明)

青い大空の下、広い野原の中に一本の線香が立っている。たった一本の細い小さな線香、誰も気付かず通り過ぎてしまう。然し辺りに何かいい匂いが漂っている。...誰一人見向いてくれなくても線香は独りひっそりと燃え続けている。そしてかすかにいい香を残して消えてゆく...

[嶋津克史君の発言に関して]

「社員を雇用する事により社会に貢献している」と述べられましたが、職業奉仕は、自分の事業に精を出し、profit (物質的・精神的な恩恵)を得て、事業を発展させると共に、従業員にそのprofitを分かち合い、取引業者ともprofitを分かち合い、その上同業者にもそのノウハウを開示しprofitを分かち合い、そして地域社会へ自分が得たprofitを還元し、それを国際社会にも広げていくことであります。

事業に精を出すときは、ロータリーで得た経験を生かし、ロータリー精神に則ることが大事であります。従業員も、取引業者も、世間も、道を踏み外して得たprofitは、喜びません。正しいことをして、心に恥じない仕事をして、即ち倫理基準を遵守して得たprofitなら、喜んで受けてくれるでしょう。

そして、「成功」という山に登る時、裏の道を通って山の頂上に登り、その傍ら奉仕をする人がいるかもしれません。或いは、法に触れない範囲であくどい商売をして大儲けし、事業を発展させ、有名になり、社会福祉に寄付をする人もいるかもしれません。しかし、ロータリーはそういう奉仕は望んでいないのです。

ロータリーから見たときに邪道と思われる道を通らずに、ひたすら正道である奉仕の道登って成功という山の頂上に出ること。

・ ・ ・ そこまで完結して初めてロータリーという職業奉仕が出来たこととなります。

発表いただいた4人の方、並びにフロアから発言していただいた方、有難うございました。皆様、素晴らしいご発言で、特に、認田隆信君、嶋田 崇君、上野山捷身君、嶋津克史君に、「私の職業奉仕観」の発表をお願いしたことに間違いがなかったことを確信いたしました。ご協力、有難うございました。